

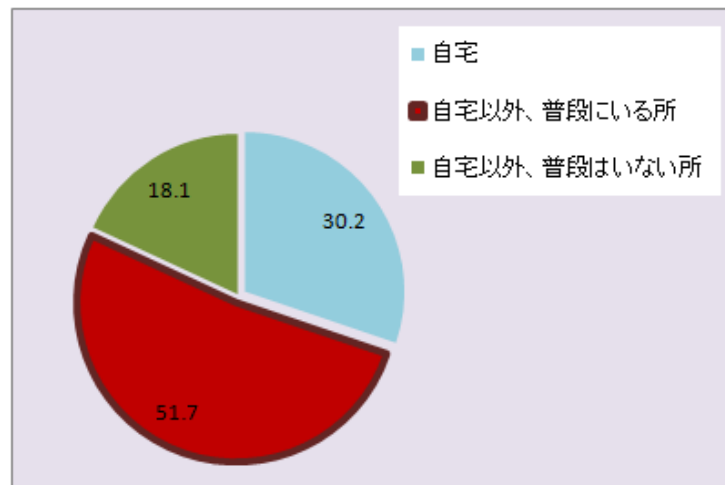
「平成23年(2011年) 東日本大震災」に伴う災害意識調査

報告書 - 通勤者編 -

■ ■ ■ <通勤者> の詳細分析 ■ ■ ■

●地震遭遇場所として、「自宅以外普段いるところ」にいた人51.7%(n=508)を「通勤者」と定義している。
(学生は少数、一部通勤しない人を含む)

地震遭遇時にいた場所

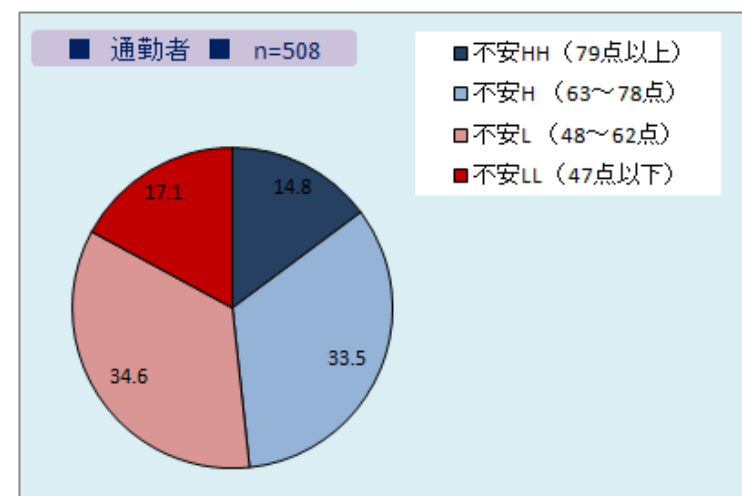


防災意識<普段から準備していること>
地震当日の行動 1 <外出先からの帰宅>
地震当日の行動 2 <帰宅までの行程と時間>
地震当日の行動 3 <情報入手経路>
現在の状況 (震災後)

■ ■ ■ 不安スケールによる東日本大震災前後の態度分析 <通勤者> ■ ■ ■

●「通勤者」(n=508)を普段の不安傾向の強弱により、以下のようにセグメントしている。

普段の気持ち



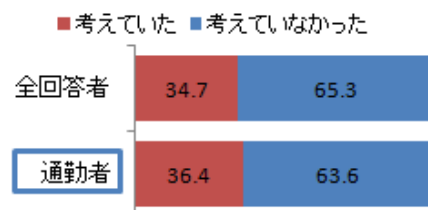
防災意識<普段から準備していること>
地震当日の行動 3 <情報入手経路>
現在の状況 (震災後)

平成23年4月

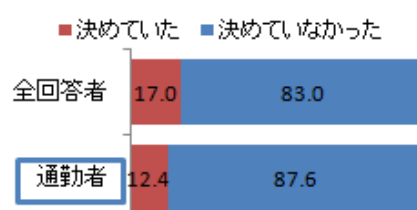
通勤者n=508の詳細分析

防災意識<普段から準備していること>

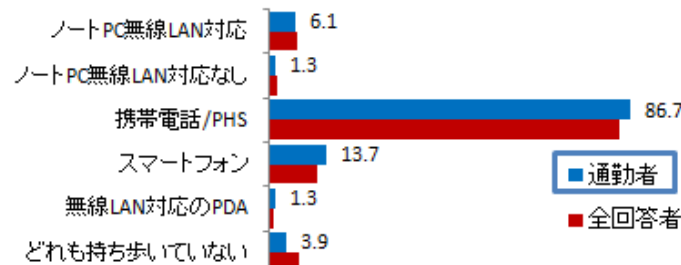
本震災以前、災害時の帰宅方法を考えていたか



本震災以前、家族との連絡方法を決めていたか

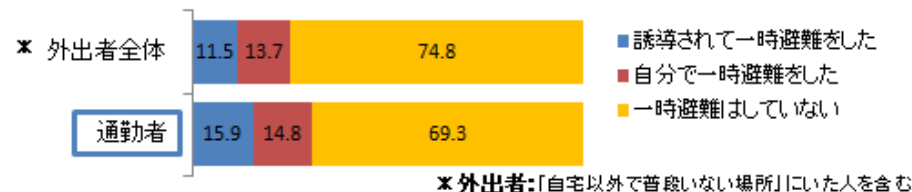


普段携行機器（震災以前）



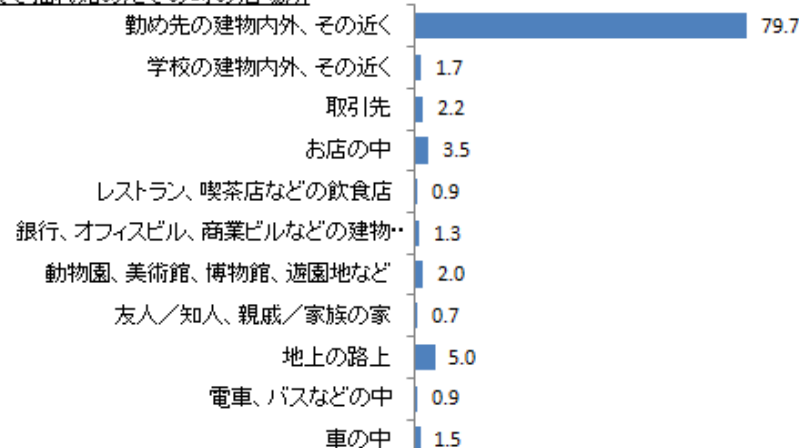
地震当日の行動1 <外出先からの帰宅>

地震発生直後一時避難をしたか

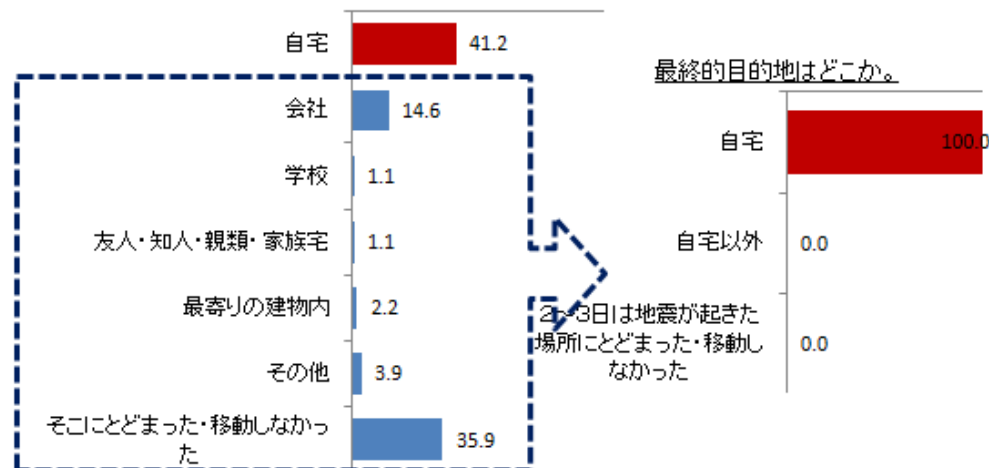


通勤者

地震で揺れ始めたその時の居場所



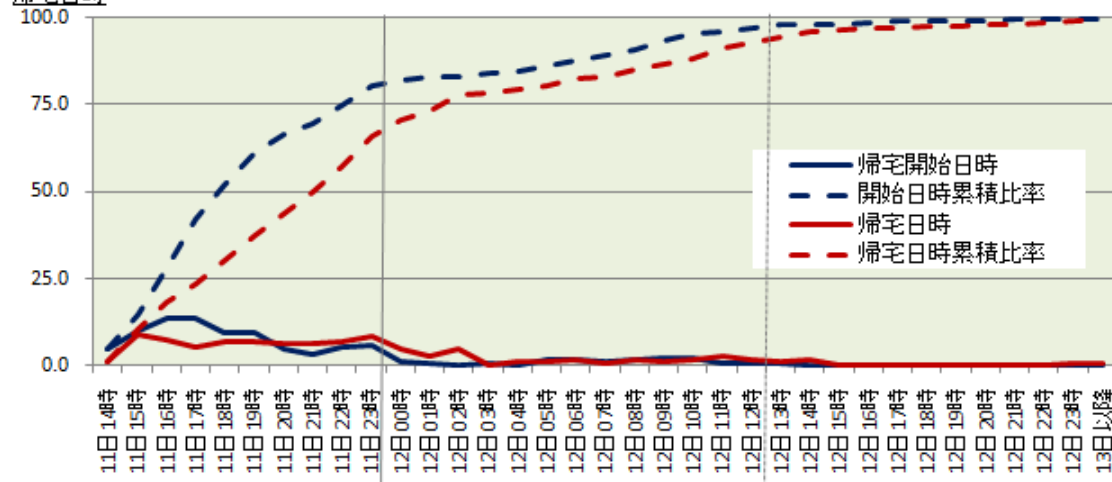
地震に遭った場所からどこに移動したか（一時避難の有無にかかわらず）



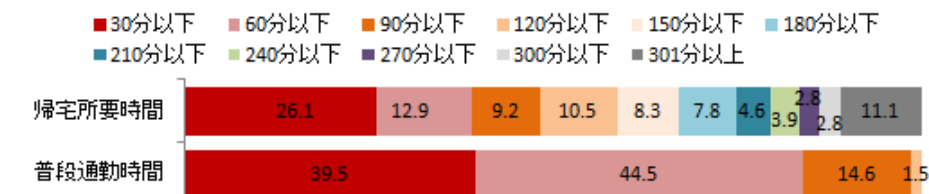
地震当日の行動②<帰宅までの行程と時間>

■ 通勤者 ■

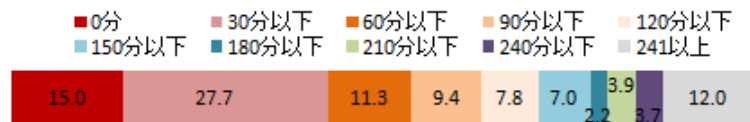
帰宅日時



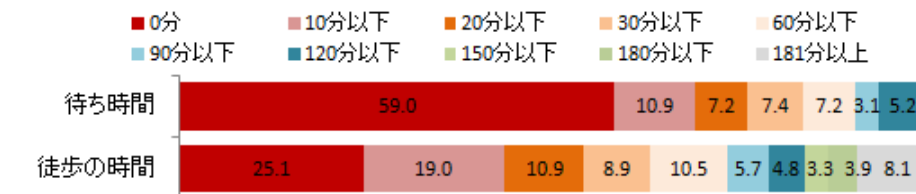
帰宅所要時間(分)



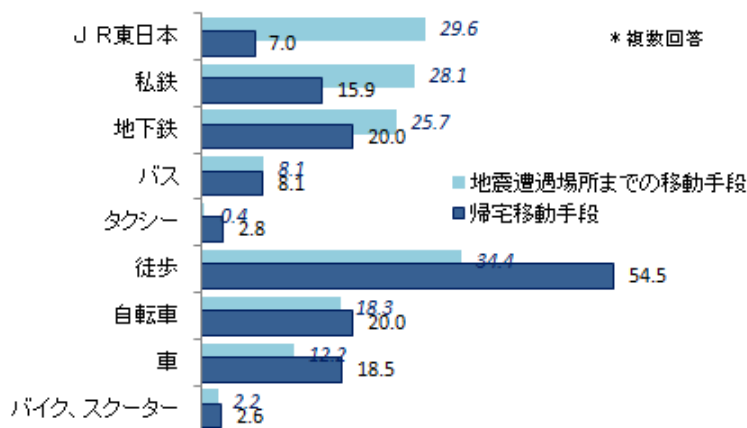
普段の帰宅所要時間との差(分)



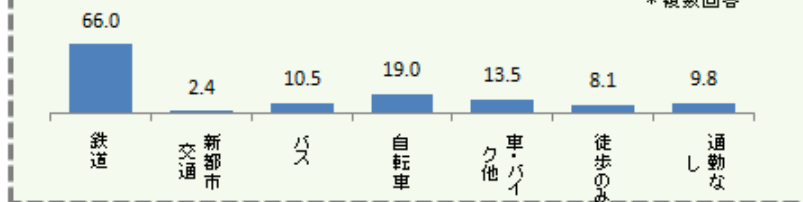
帰宅までの間の徒歩時間と待ち時間(駅/交通機関を待っていた構内や周辺/バス停など)



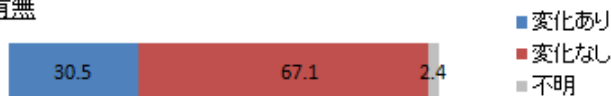
その場所から帰宅までの間利用した交通会社、移動手段(抜粋)



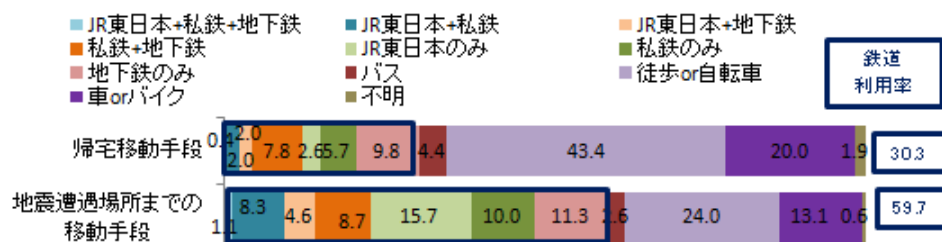
普段の交通手段



交通手段変化の有無



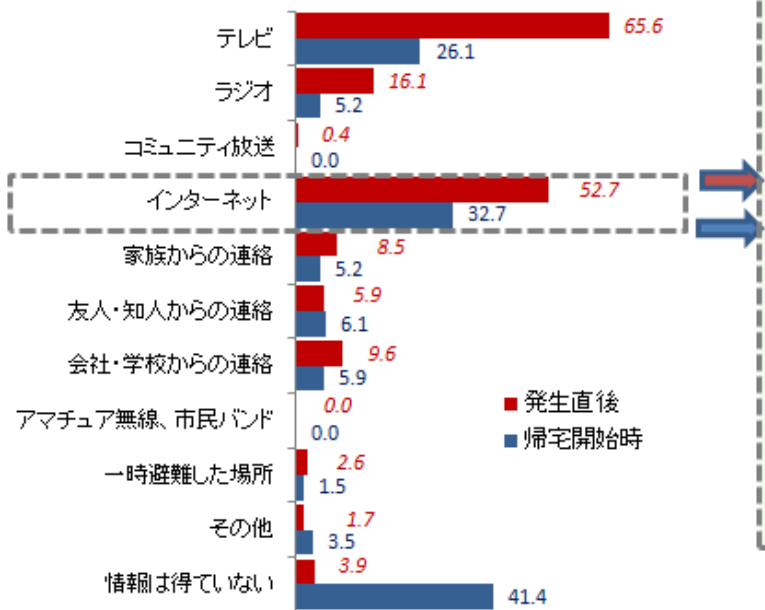
地震遭遇場所までの交通手段と帰宅交通手段<パターン>



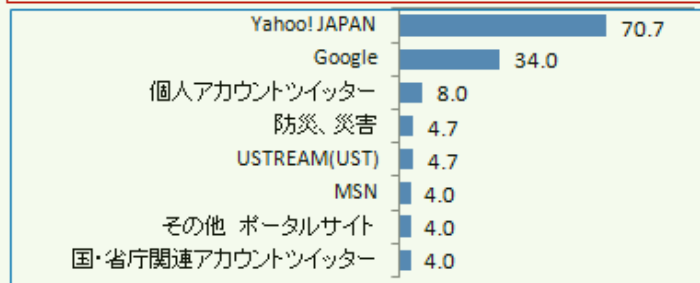
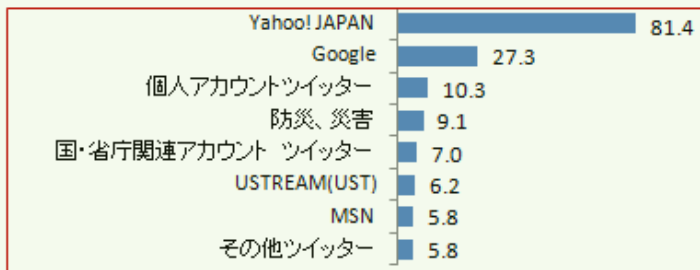
地震当日の行動③<情報入手経路>

■ 通勤者 ■

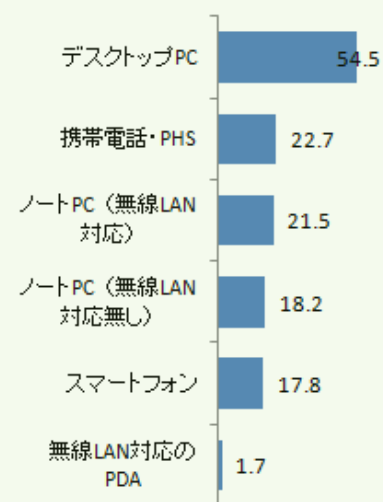
地震発生直後、帰宅開始時、地震や被害に関する情報は何かから得たか



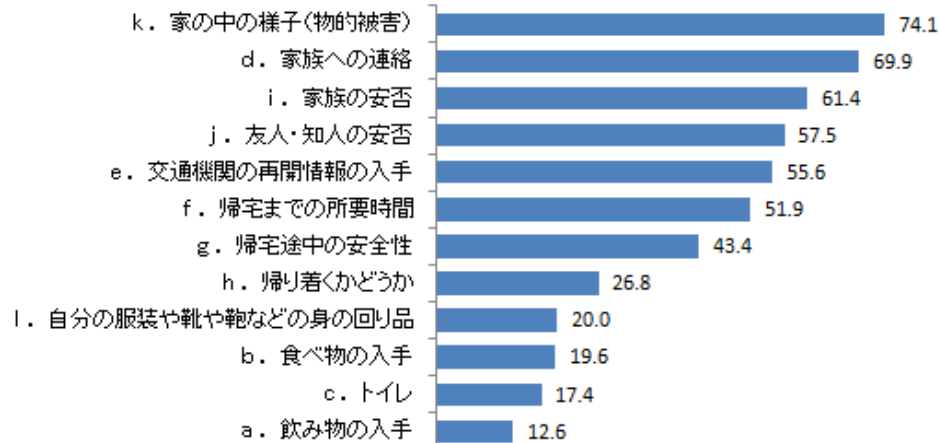
アクセスサイト



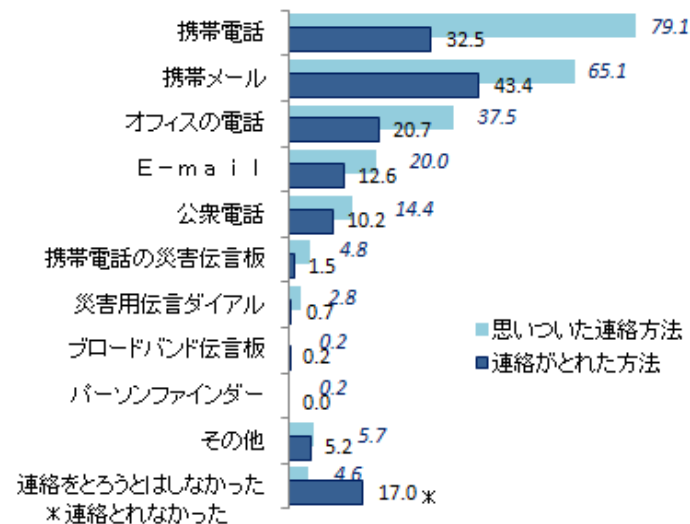
アクセス機器



帰宅途中不便や不安を感じた事象

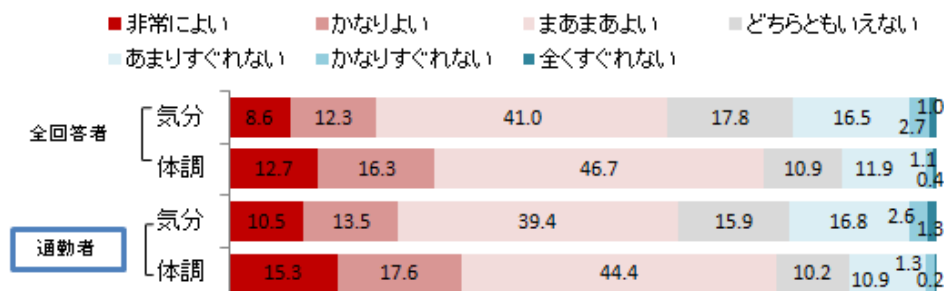


自宅に着くまでの間に、「思いついた連絡方法」と「連絡がとれた方法」

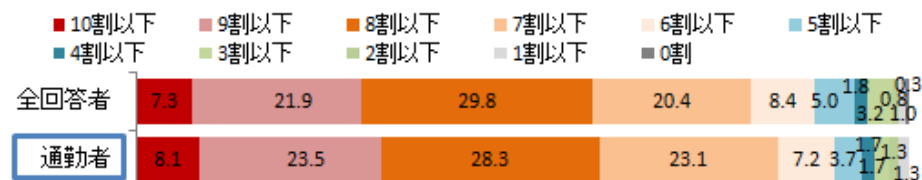


現在の状況（震災後）

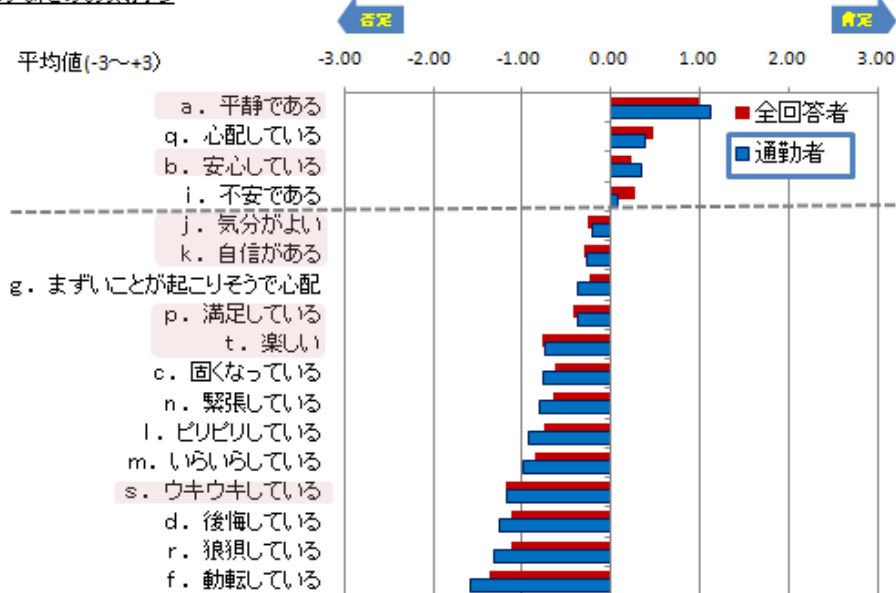
現在の体調や気分



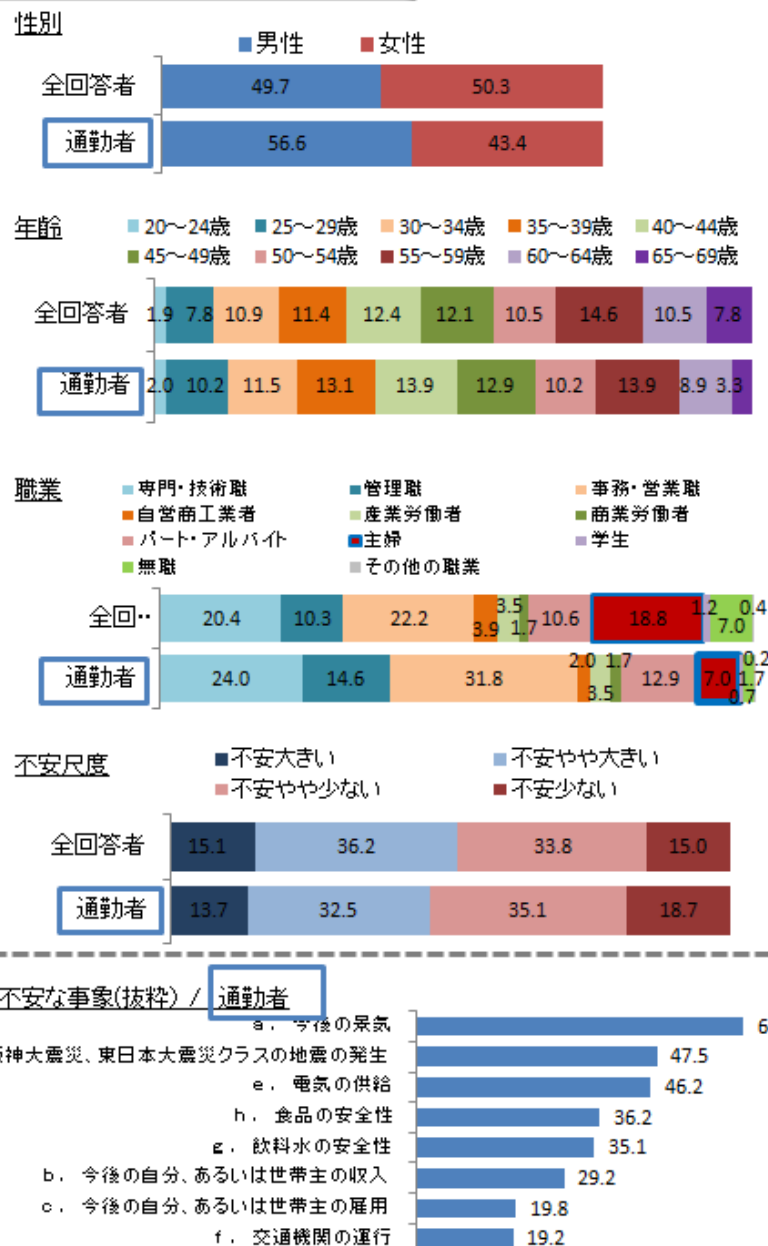
本震災前の状況と比べた生活の不便さ回復程度



現在のあなたのお気持ち



<通勤者>のデモグラフィック特性



不安スケールによる震災前後の態度分析

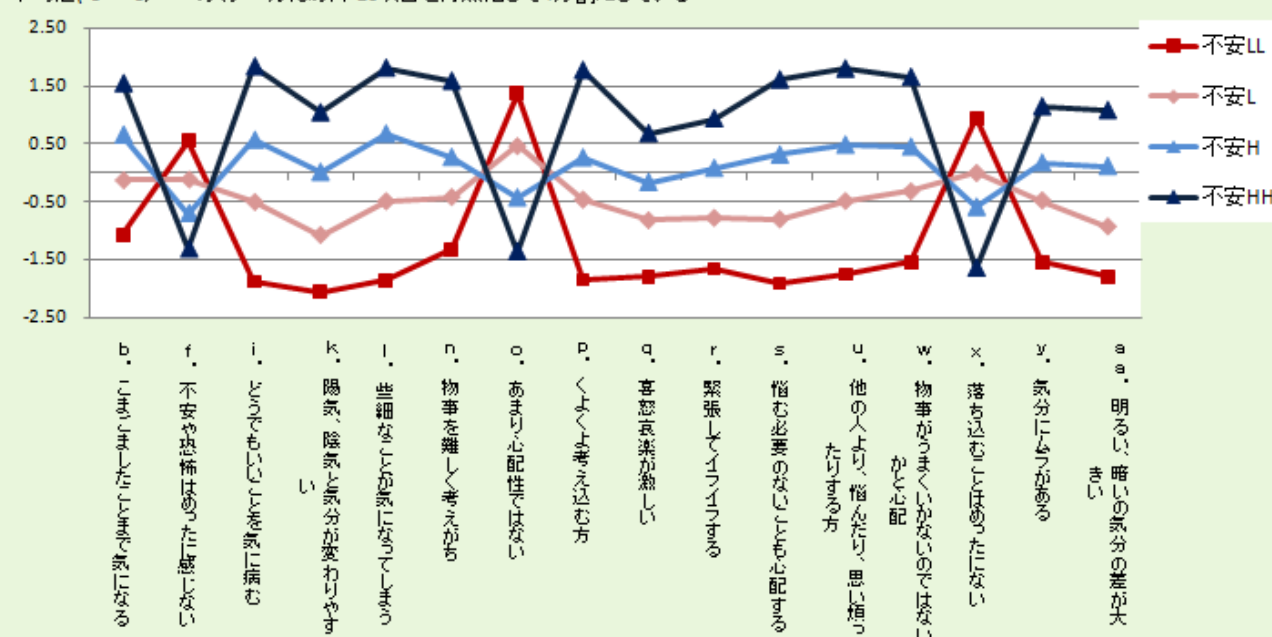
通勤者

不安スケール（性年齢別）

不安LL (47点以下) 不安L (48~62点)
不安H (63~78点) 不安HH (79点以上)

TOTAL	17.1	34.6	33.5	14.8
男性	18.2	34.4	34.0	13.4
20代	16.7	36.1	30.6	16.7
30代	16.7	32.1	35.9	15.4
40代	14.5	31.9	34.8	18.8
50代	20.5	37.0	35.6	6.8
60代	25.7	37.1	28.6	8.6
女性	15.7	35.0	32.7	16.6
20代	7.1	35.7	42.9	14.3
30代	6.5	30.4	32.6	30.4
40代	18.5	29.2	35.4	16.9
50代	17.3	42.3	32.7	7.7
60代	30.8	42.3	15.4	11.5

平均値(-3~+3) : スケールは以下16項目を得点化して4分割している

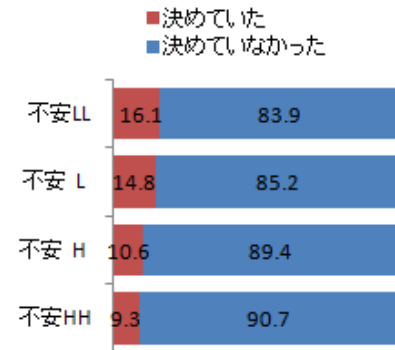
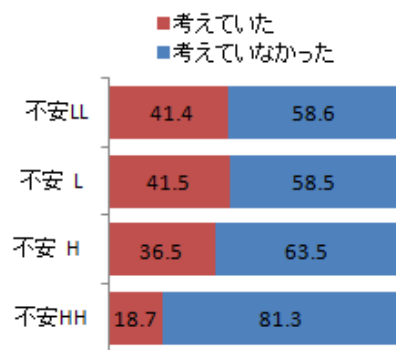


防災意識<普段から準備していること>

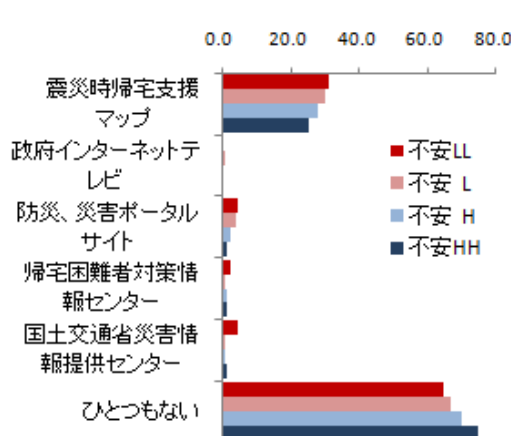
通勤者

本震災以前、災害時の帰宅方法

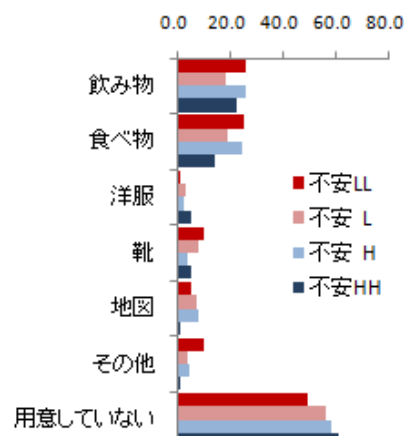
本震災以前、家族との連絡方法



災害関連情報接触



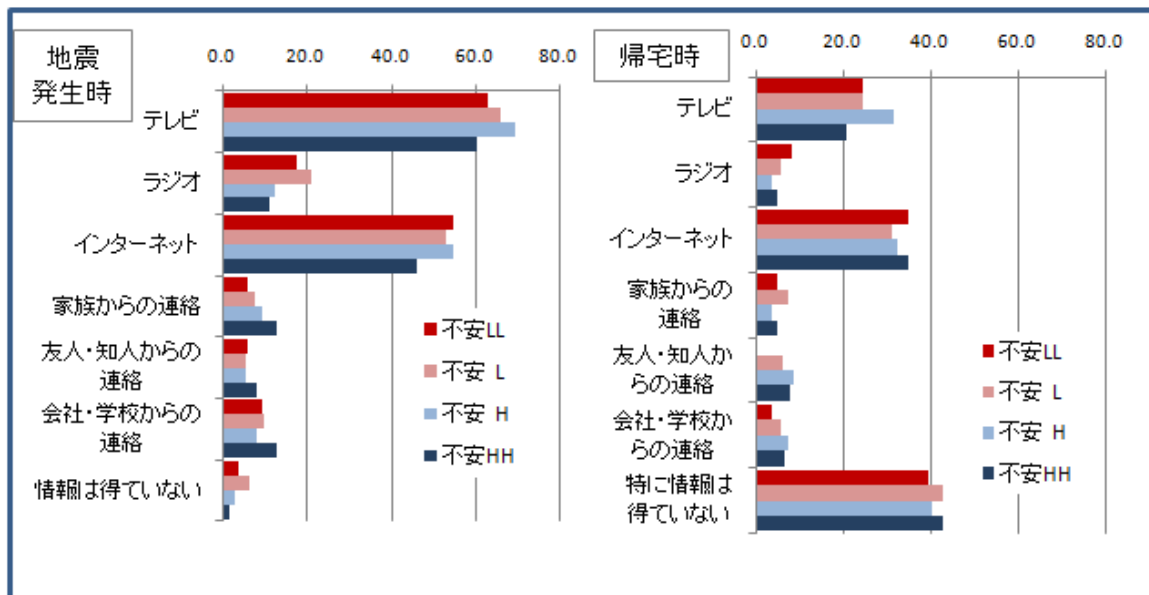
災害時委任用備品



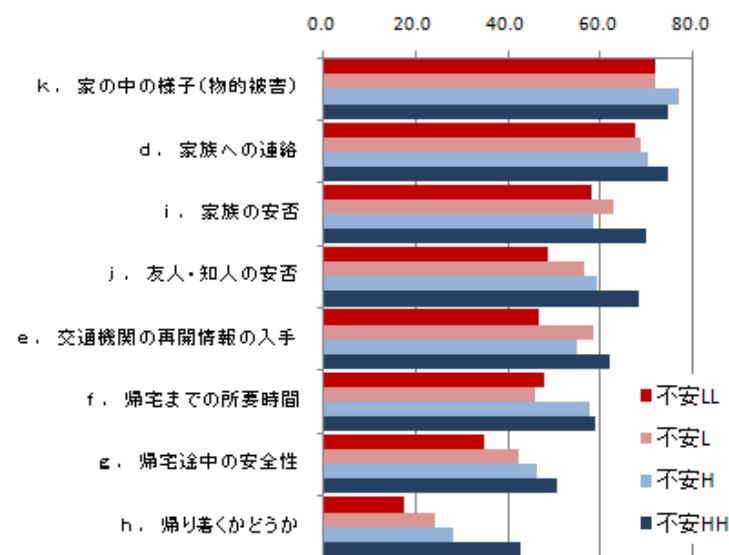
地震当日の行動3<情報入手経路>

通勤者

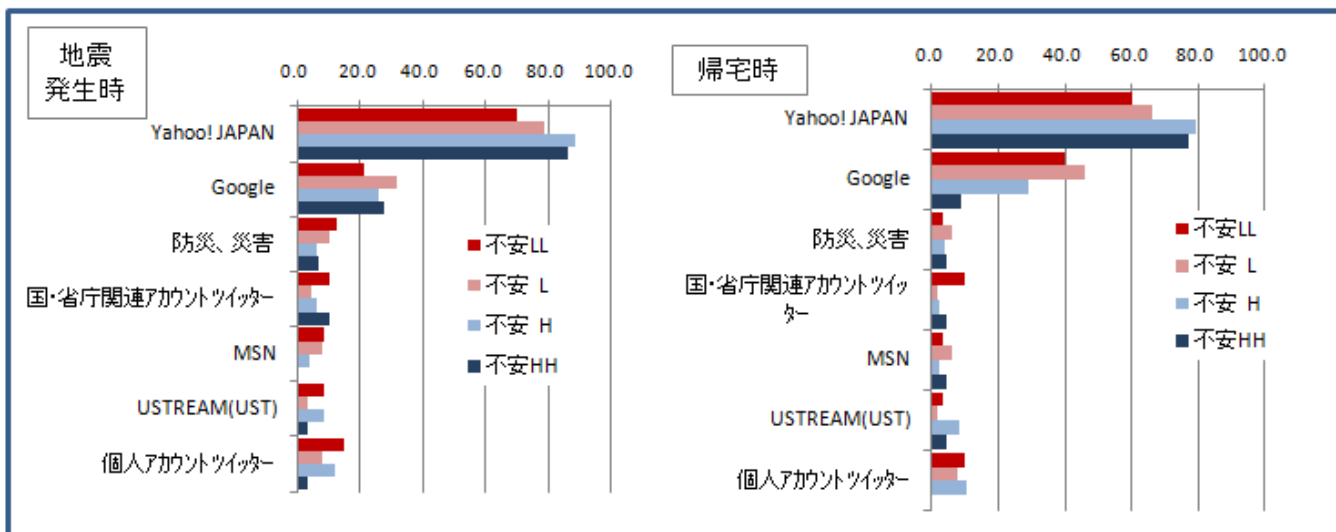
情報源



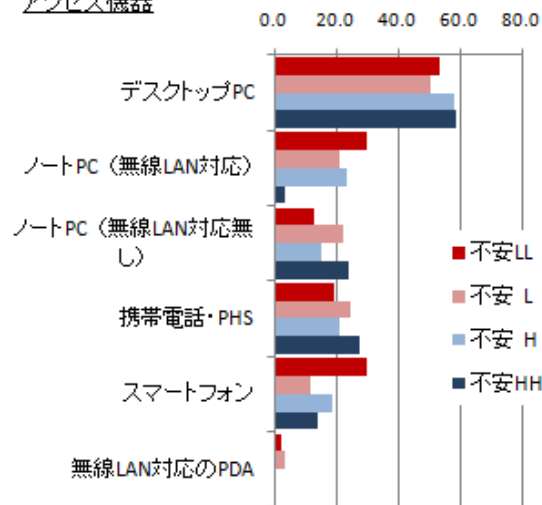
帰宅途中不便や不安を感じたこと



アクセスサイト



アクセス機器

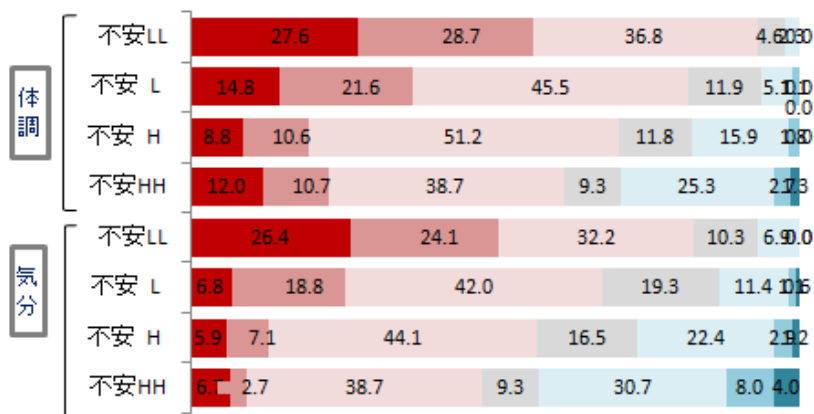


現在の状況（震災後）

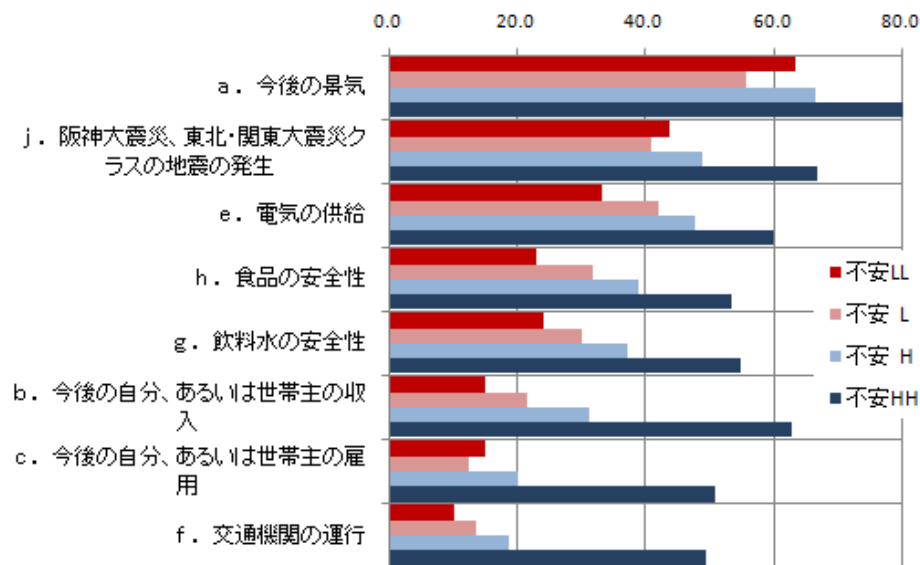
■ 通勤者 ■

現在の気分や体調

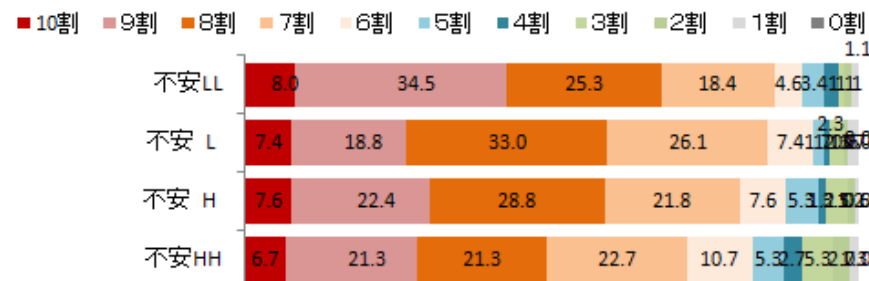
■ 非常によい ■ かなりよい ■ まあまあよい ■ どちらともいえない ■
 ■ あまりすぐれない ■ かなりすぐれない ■ 全くすぐれない



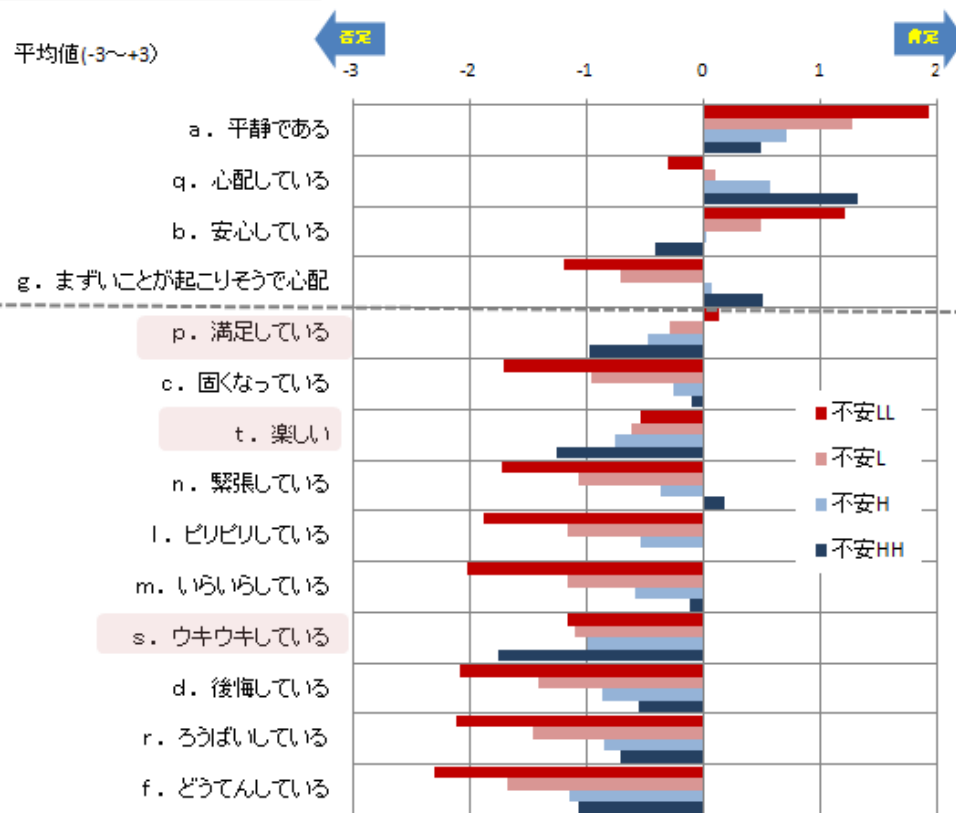
不安に感じている事象（抜粋）



東北・関東大震災前の状況と比べた生活の不便さ回復程度



現在のあなたのお気持ち（抜粋）



■■■ <通勤者 n=508> の詳細分析 ■■■

防災意識<普段から準備していること>

- あらかじめ帰宅方法を考えていた人は36%、家族との連絡方法を決めていた人は12%である。
- 普段の携行機器は、携帯電話が87%と最も多く、スマートフォンが14%である。
- ◎防災意識は全体傾向と変わらない。

地震当日の行動 1 <外出先からの帰宅>

- 東日本大震災当日(2011年3月11日)での遭遇場所は、「勤め先、その付近」が80%で、最終的には全員が自宅に戻っている。「誘導避難」が16%である。
- ◎概ね、勤め先やその付近で遭遇しており、外出者全体に比べわずかに「誘導避難」率が高い。

地震当日の行動 2 <帰宅までの行程と時間>

- 通勤者の<帰宅開始日時>は、当日11日16時~17時がピークであり、11日18時では50%超が帰宅開始している。また、<帰宅日時>は当日11日15時~23時に分散しており、11日21時には50%が帰宅、11日当日中には70%が帰宅している。普段の帰宅時間との差は「30分以下」27%、「60分以下」45%である。
- <地震時の帰宅移動手段>の変化をパターンで見ると、JR東日本、私鉄、地下鉄を含めた「鉄道」利用率は帰宅時には半減、一方「徒歩・自転車のみ」は約2倍、「車・バイクのみ」も約1.5倍となっている。遭遇場所まで利用した交通機関と異なった手段で帰宅した人は31%である。
- ◎通勤者は地震発生から2-3時間で半数が帰宅行動に入り、帰宅到着は広く11日夕方から深夜に渡っている。全回答者に比べると、帰宅開始でやや1時間遅いタイミング、帰宅時間は分散したことがわかる。帰宅手段の変化は、帰宅時には「鉄道」が半減、「徒歩・自転車」は約2倍、「車・バイク」も約1.5倍の利用となり、通勤者全体の30%が交通手段を変更したことになる。

地震当日の行動 3 <情報入手経路>

- 通勤者の地震や被害情報は、<地震発生時>には「テレビ」「インターネット」が多いが、<帰宅開始時>では41%が情報を得ていない。「デスクトップPC」でのアクセスが最も多く、70-80%の人が「Yahoo! JAPAN」にアクセスしている。
- <連絡がとれた方法>は、「携帯メール」43%、「携帯電話」33%、「オフィスの電話」21%が上位である。
- ◎情報収集の中心は「テレビ」、「インターネット」だが、通勤者ではやや「インターネット」接触率が高い。また、連絡手段では「オフィスの電話」も若干みられる。総じて、情報入手経路は全体傾向と変わらない。

現在の状況 (震災後)

- 通勤者の現在の状況では、<気分>「非常に~まあまあよい」は63%、<体調>「非常に~まあまあよい」は77%である。気分としては、上位項目の「平静である」「安心」が回答者全隊よりやや高い。現在の不安は「今後の景気」が最も多く、以下「阪神淡路・東日本大震災程度の大地震発生」「電気の供給」が続く。
- ◎現在の状況への思いは概ね全体傾向と変わらないが、不安感は総じてやや低めである。

■■■ 不安スケールによる震災前後の態度分析 <通勤者> ■■■

不安スケール

●通勤者について、年齢別に不安程度の内訳をみると、女性層では30代が最も不安が強くピークである。男女とも50-60代では不安度が低い。

防災意識<普段から準備していること>

●不安度別にみると、不安HH層で「あらかじめ帰宅方法を考えていなかった」「家族との連絡方法を決めていなかった」「災害関連情報に事前接触していない」「災害備用品用意していない」人が多い。一方、不安LL層では「帰宅支援マップ」「水」「飲み物」等準備率が高い。

◎不安度が高いほど事前準備がなく、低いほど準備をしており、準備と不安との相関は高いと思われる。

地震当日の行動3 <情報入手経路>

●不安度別にみると、不安HH層では<地震発生時><帰宅開始時>ともメディア接触率が総じて低く、「家族」「学校友人」等の口コミ接触率が高い傾向があり、また不安H、HH層で多く「Yahoo! JAPAN」にアクセスしている。一方、L、LL層では発生時に「防災・災害」「国省庁関連アカウントツイッター」サイト、帰宅後は「Google」「国省庁関連アカウントツイッター」等のサイトの利用が相対的に高い。

●帰宅途中に感じた不安や不便さでは、「家の中の様子(物的被害)」「家族への連絡」等上位項目では不安度による差があまりみられない。しかし、HH層ではどの項目も総じて高く、特に「帰り着くかどうか」は他層よりかなり高い。

◎不安度が高い層では、メディア接触率が総じて低く、口コミ接触による情報収集と「Yahoo! JAPAN」サイト利用が多い。また、全般的な不安・不便が生じている。一方、不安度が低い層では「インターネット」接触が高い傾向があり、「国省庁関連アカウントツイッター」といった第一次情報との接触がみられる。不安・不便はやや限定的である。

現在の状況 (震災後)

●現在の状況では、<気分><体調>とも不安HH層では「非常に～まあまあよい」が低く、特に<気分>では12%が「かなり～全くすぐれない」としている。<現在の気持ち>でも、HH層では総じて憂鬱な傾向が強くなっており、特に「心配」「まずいことがおこりそうで心配」は他層より高く、「楽しい」「ウキウキ」に否定的反応がみられる。

●<現在普段不安に感じている事象>では、「今後の景気」には不安度による差があまりみられない。しかし、HH層では他の項目も含め総じて高い。

◎普段、不安に陥りやすい傾向がある人ほど、現在の状況への不安が強く、不安内容も多岐にわたる傾向にある。